

工業部会 通信

(発行)
かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKEI

第18期新体制へ

工業部会 部会長に山崎氏 副部会長8人も選任

相模原商工会議所・工業部会は9月12日、市立産業会館で部会総会を開催し、第18期からの工業部会長として城山工業社長の山崎利宏氏を選任した。総会では、工業部会から2号議員18人を選任したほか、1号議員として26人を選挙委員会に推薦した。また、部会長の山崎氏のほか、工業副部会長も

決まった。西澤勇司氏(キヤロットシステムズ)をはじめ、杉本祥一氏(ハリスポット)、小林昌純

松岡副部会長 退任あいさつ

1993年4月に37歳で「青工研」に入会以来、お付き合いいただきまして誠にありがとうございます。

青工研卒業後に、「近未来技術研究会」を立上げて副会長を11年務めました。その後工業部会副部会長の専任担当として「新成長ビジネスGETプロジェクト」をスタートさせました。

相模経済新聞に各社の海外進出を含めた「新成長ビジネスGETプロジェクト」関連の状況を各社からの寄稿文として100回連続連載しました。「工業部会通信」を発行しました。特徴は紙媒体なしでメール配信のみとしたことです。

工業部会正副部会長会議を工業部会運営会議の名称に変更して、議員はいつでも参加できるオープンな会議としました。

商工会議所の仕事としては、会報の全ページカラー印刷を実現。名誉議員の創設。玄関左にある議員名を記した銘板の設置。

商工会議所以外では「さかみはら産業創造センター」の設立検討委員で参加し取締役を60歳迄務めました。そのほか、STEP50の審議委員を5年間務めました。

以上を皆様のお陰で66歳迄やってこれました。大変ありがたく心より感謝しております。

副部会長退任にあたり工業部会在籍30年間に申し上げさせていただきました。引き続き宜しくお願いいたします。

2022年9月12日松岡康彦



事業承継テーマ フォーラム開催 青工研が協力

相模原商工会議所は10月25日の18時21時まで、市立産業会館で「事業承継フォーラム」を開催する。中小機構との共催で、相模原市青年工業経営研究会(青工研)が協力する。3部構成。

第1部は「異業種の後継者だからこそ冒険できる!」東京から来たホテルマンの親族内事業承継」と題した講演会、続

く第2部は「次世代へ繋げるバトンの渡し方・受け取り方」事業承継の実験を語ります」として座談会を企画。青工研の現役会員やOBたちが参加し、自身の経験を語る。

最後の第3部では、各支援機関の支援事業についての解説がある。申し込み、問い合わせは産業振興課042・753・8136まで。

3次元CAD 講座を開催へ

10月に初心者対象

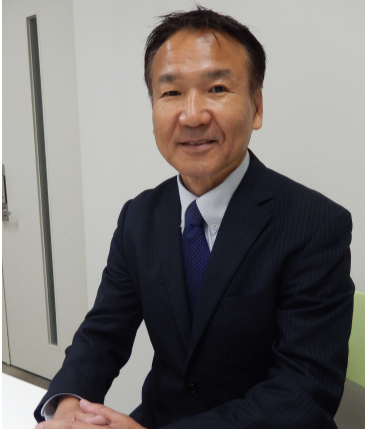
相模原商工会議所は10月13、14、21日の3日間、市立産業会館で「3次元CAD機械設計技術講座」を開催する。時間は10時17時まで。市内の製造業経営者または従業員を対象にした初学者向け講座。市内などで教育事業を展開する相模原市エンジニアリングが担当する。同講座を受けることで▽3次元の考え方が学べる▽2次元CADとの違いが理解できる▽3次元CAD導入の必要性などが検討しやすくなる▽導入ソフトの検討がしやすくなるなどのメリットがあるという。

参加費は1人当たり6000円。先着順で12人まで。申し込み、問い合わせは産業振興課042・753・8136まで。

松岡康彦氏 コラム 経営者と 「教育」

今回は「経営者としてリカレント教育」をテーマに話します。

受けるべきだと思えます。理由は経営の実践に役立つ宝庫だからです。会社に入りました。私もしばらく営業の見習い



をやりましたが、お客様から発注される機械加工図面が、ごく簡単なものしか理解できず「このままだと営業が務まらない、仕事ができない」ということに気づきました。そして専門学校で学ぶしかない判断し、職業訓練校で1年間、機械製図を学びました。卒業時にはボール盤を設計しましたので、機械製図は問題なく読めるようになりました。

1980年に入ると、産業界はコンピュータ時代に入りました。当時は大企業でもドラフター(製図板)による製図が当たり前で、私は機械製図を学んでいました。いち早くCAD/CAMの導入を決めました。最先端の技術を矢張り早く導入した教育が背景にあったら

その後、社内につづ病

患者が次々と4人も出てしまったことがきっかけになり、今度は日本福祉専門学校で「精神保健福祉士」、和光大学大学院で「公認心理師」も学び、国家資格を取得。職場環境の改善に努めました。リカレント教育で学ぶことは、必ずと言っていいほど経営の役に立ちます。もう少しで秋の夜長を迎えますので、身近な学びを始めてみたらいか

かながわ経済新聞特別編集委員・公認心理師・松岡康彦

「身近な学び」のススメ

学校教育を卒業した後、社会人になってからの生涯教育のことを指しますが、経営者ほど積極的に

さあ、5年後の未来を見に行こう。



新規会員募集中

近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会